

コースフロー /
コースカリキュラム

2018.10 – 2019.3

IT戦略・IS企画/システム設計

システム計画／システム設計を
行うために必要な
知識・技術が修得できます。

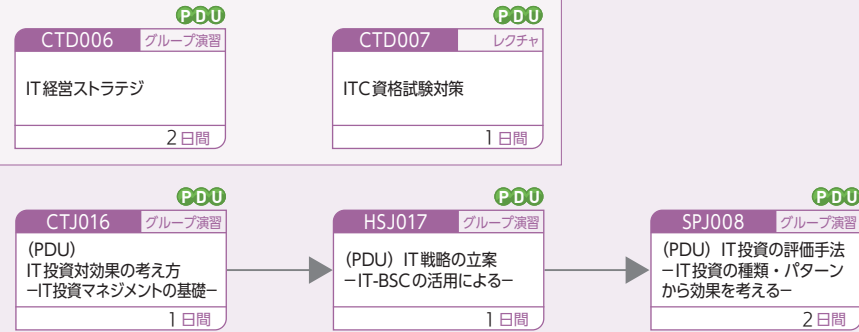
<https://www.hitachi-ia.co.jp/>
日立インフォメーションアカデミーホームページ

IT戦略・IS企画

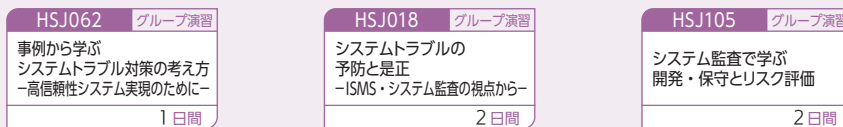
IT戦略・企画立案やプロセス評価、BA(Business Analysis)に関する知識や手法が修得できます。

● 経営戦略／IT戦略の立案・強化をお考えの方

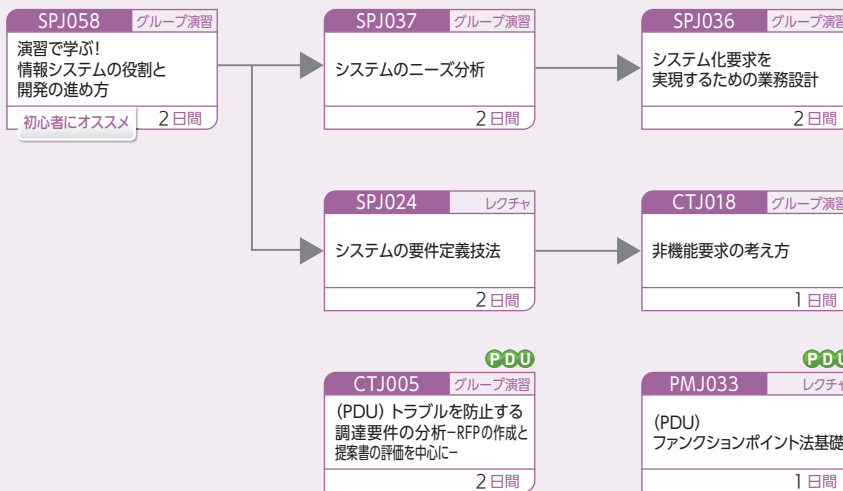
<ITコーディネータ関連コース>



● 内部統制の向上・強化をお考えの方



● システム企画／要件定義に携わる方



音声有・説明文有 : 学習の説明画面とナレーション(説明テキスト)で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

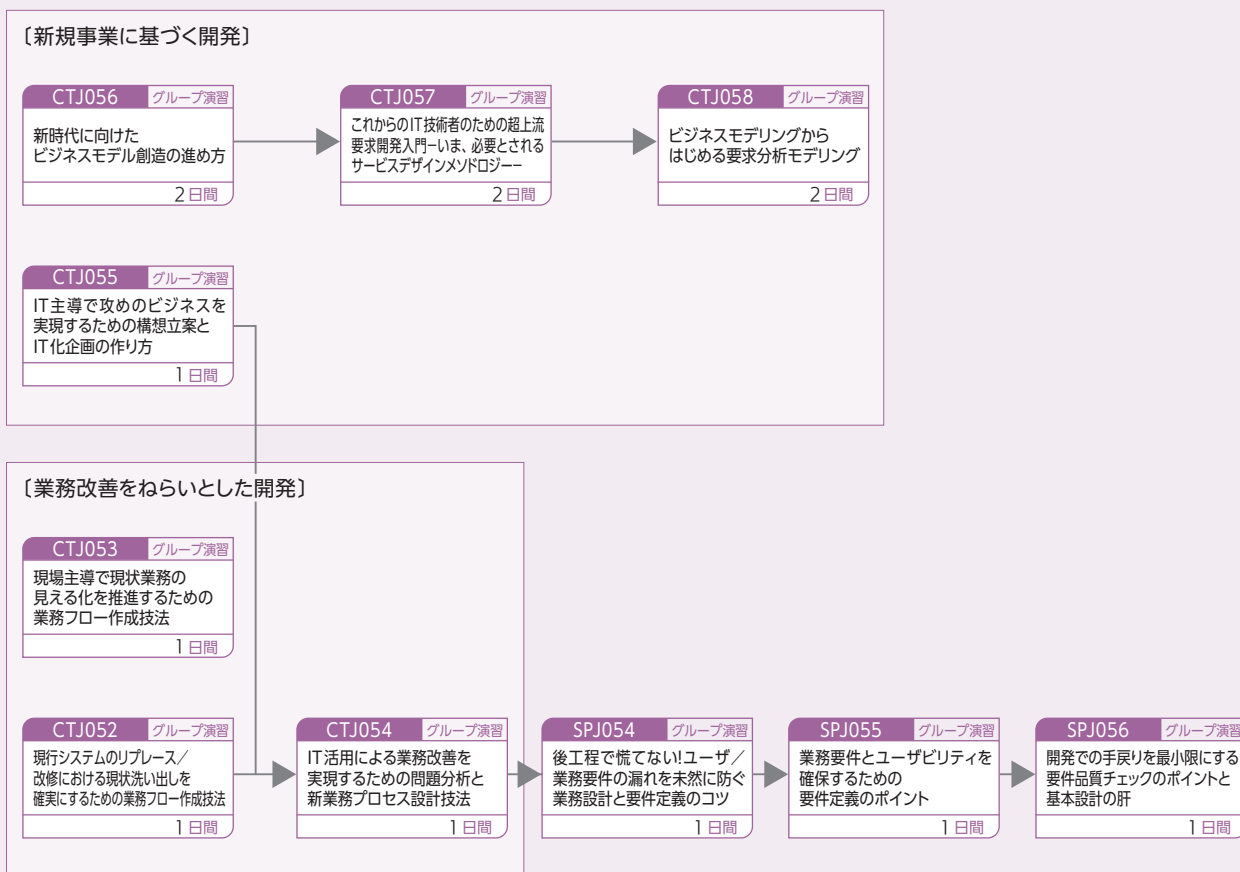
音声有・説明文なし : 収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。

音声なし・説明文有 : 学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

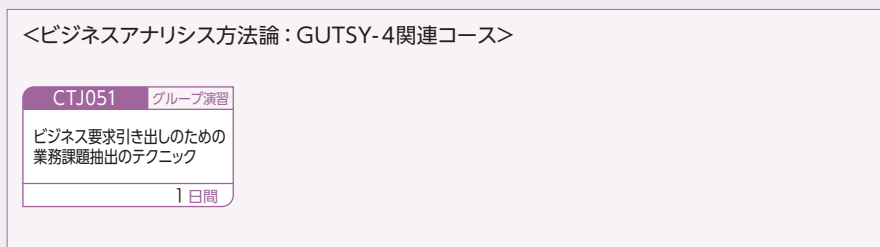
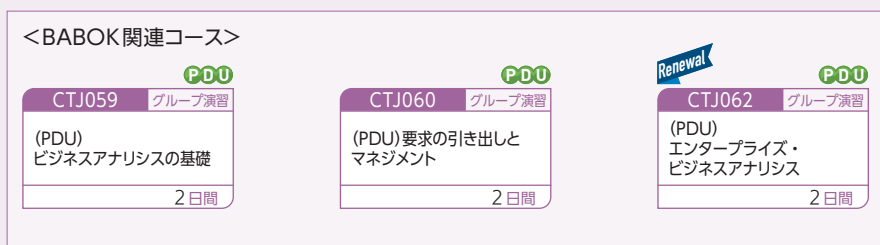
初心者におススメ : コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。

PDU : PMP®資格更新に必要なポイント(PDU)を取得できます。

● システム企画／要件定義に携わる方（特に、現場で困っていたり、これから実務で取り組むにあたってお悩みの方向け）



● ビジネスアナリシスに取り組まれる方、関心をお持ちの方



音声有・説明文有：学習の説明画面とナレーション（説明テキスト）で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

音声有・説明文なし：収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。

音声なし・説明文有：学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

初心者におすすめ：コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。

PDU：PMP® 資格更新に必要なポイント（PDU）を取得できます。

HSJ017 IT戦略・IS企画

(PDU) IT戦略の立案
—IT-BSCの活用による— **PDU**

1日間

「ビジネスに役立つIT投資」を実践するために必要となるIT戦略立案プロセスに関する知識や限られた経営資源で最高のITパフォーマンスを引き出す戦略面でのポイントを、講師による解説、ケーススタディ演習を通して学習します。このコースは、PMP®資格更新に必要なポイント(PDU: 6.5ポイント)の取得が可能です。

到達目標

- IT戦略の基礎知識を理解できる。
- 経営者が納得するIT企画書を作成できる。

対象者 IT戦略立案を担当する方、システム企画を担当する方、システムアナリスト・システムエンジニア・セールスエンジニアの方。

前提知識 情報化に関する基礎知識があること。

内容

- 今なぜIT戦略なのか
 - クラウドゼビッツの戦略論
 - 経営トップはIT戦略に関与しているか
 - IT部門は経営戦略を意識しているか、ほか
- IT戦略の基礎知識
 - 全体最適化
 - 組織体制
 - 情報化投資ほか
- ITバランススコアカード(IT-BSC)による戦略マネジメント
 - ビジョンと戦略
 - IT-BSCの標準フレームワーク
 - IT投資マネジメントへの応用ほか
- 経営者が納得するIT企画書
 - どれだけの費用が発生するのか
 - どれだけの効果が期待できるのか
 - IT投資企画書のフレームワークほか
- まとめ

備考

- このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- PMI®、PMP®、PMBOK®ガイド、はプロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。

SPJ008 IT戦略・IS企画

(PDU) IT投資の評価手法
—IT投資の種類・パターンから効果を考える— **PDU**

2日間

IT投資に対するユーザ企業の評価は依然として厳しい状況が続いています。このような状況を解決しIT投資を生かすためには、経営陣の積極的な関与はもちろ、IT投資の目標を明確にし、目標に対する費用対効果について適切な評価ができるモデルを構築する必要があります。BSC、IT-BSC、SLMを、演習を通して体験するとともに、IT投資効果を戦略的投資、基盤への投資、保守への投資の観点から把握し、IT投資の評価モデル構築へのアプローチを学習します。このコースは、PMP®資格更新に必要なポイント(PDU: 13ポイント)の取得が可能です。

到達目標

- IT投資の評価モデル構築へのアプローチを理解できる。
- IT投資の種類・パターンから見た効果を把握できる。

対象者 いかにか効果的なIT投資を行うか心算を砕いておられるIT部門/ユーザ部門およびベンダの方、中小企業診断士・システムアナリスト・プロジェクトマネージャの方またはこれらをめざす方。

前提知識 情報化に関する基礎知識があること。

内容

- IT投資の実態と評価の状況
- 情報化におけるコストの内訳、構造
- IT投資の種類・パターンからみた効果把握のアプローチ
- BSC(バランススコアカード)、IT-BSC(ITバランススコアカード)へのアプローチ、演習
- SLM(サービスレベルマネジメント)へのアプローチ、演習
- IT投資評価モデル構築へのアプローチ

備考

- このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- PMI®、PMP®、PMBOK®ガイド、はプロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。

CTJ016 IT戦略・IS企画

(PDU) IT投資対効果の考え方
—IT投資マネジメントの基礎— **PDU**

1日間

IT投資の提案者や評価者が身につけておきたいIT投資マネジメントに関する実践的スキルを、講師による解説、グループ演習を通して学習します。このコースは、PMP®資格更新に必要なポイント(PDU: 6ポイント)の取得が可能です。

到達目標

- 我が国のIT投資マネジメントの現状を再確認できる。
- IT投資マネジメントが抱える課題とそれを解決する各種方法論を理解できる。
- IT投資マネジメントシステムの構築手順を理解できる。

対象者 ITプロジェクトの提案及び評価を担当する方および候補の方。または興味を持つ方。

前提知識 情報化に関する基礎知識があること。

内容

- 今なぜIT投資マネジメントなのか
 - 我が国のIT投資を取り巻く環境
 - IT投資マネジメントが抱える課題
- IT投資マネジメント概論
 - IT投資マネジメントに関するガイドライン
 - ITIM成熟度モデル
- IT投資マネジメントシステムを構築する
 - IT投資マネジメントプロセス
 - ITバランススコアカード
 - ITプロジェクトの費用対効果分析
 - IT投資ポートフォリオモデル
- まとめ

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- PMI®、PMP®、PMBOK®ガイド、はプロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。

CTJ005 IT戦略・IS企画

(PDU) トラブルを防止する調達要件の分析
—RFPの作成と提案書の評価を中心に— **PDU**

2日間

情報システムの開発/導入は重要な投資案件であるにも関わらず、処理能力不足や予算超過など、多くの失敗事例が報告されています。これらの中には調達要件の分析不備が原因と推定されるケースも少なくありません。システム要件を的確に伝えるRFPの作成、ベンダからの提案書の合理的な評価方法、および信頼性を向上させるIT契約書の締結などに関する知識を、演習を通して学習します。このコースは、PMP®資格更新に必要なポイント(PDU: 12ポイント)の取得が可能です。

到達目標

- RFPの作成と提案書の合理的な評価ができる。
- 信頼性の高いIT契約を締結できる。

対象者 情報システム部門でシステム企画/調達等を担当する方、システムアナリスト・プロジェクトマネージャ・システムエンジニア・セールスエンジニアの方。

前提知識 情報化に関する基礎知識があること。

内容

- IT調達に抱える課題と調達要件分析の重要性
- プロジェクト調達マネジメント/IT調達ガイドライン
- 要件を的確に伝えるRFP(提案依頼書)
 - 演習: 新システム導入に関するRFP検討
- 合理的な提案書評価
 - 演習: ベンダからの提案書評価
- 信頼性を向上させるIT契約書

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- PMI®、PMP®、PMBOK®ガイド、はプロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。

SPJ033 IT戦略・IS企画

(PDU) 保守開発におけるトラブル対策の考え方

1日間

既存システムの修正や改良といった「保守開発」におけるトラブル対策の実践的知識を学習します。保守開発を進めるうえで留意すべきトラブル対策のポイントを、講師による解説とグループ演習を通して理解することができます。

到達目標

- 保守開発の現状と課題が説明できる。
- 保守開発プロセスにおいて強化すべき改善ポイントが提言できる。
- 保守開発で発生したシステムトラブルの原因分析と対策立案を実践できる。

対象者 プロジェクトマネージャ、保守開発担当者、品質管理担当者、内部監査担当の方。

前提知識 情報化に関する基礎知識があること。

内容

- 今なぜ保守開発のトラブル対策なのか
 - 保守開発の現状
 - 保守開発プロセスが抱える課題
- 保守開発マネジメント概論
 - 保守開発に関連するガイドライン
 - トラブル防止に向けた取り組み
- 保守開発プロセスの改革提言
 - 保守開発段階での品質管理とは
 - 保守開発計画と工数見積りのレベルアップ
 - 開発環境とテスト環境の強化ポイント
- 保守開発トラブルのマネジメント
 - トラブル関連情報の収集と傾向分析
 - ヒューマンファクタ分析の応用
- まとめ

講師: 前橋 雅夫氏
前橋システムコンサルティング株式会社 代表取締役
公認システム監査人、ITコーディネータ、ISMS審査員補ほか

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。

CTD006 IT戦略・IS企画

IT経営ストラテジ **PDU**

2日間

ITコーディネータプロセスガイドラインに準拠し、企業のIT経営を成功させるためのマネジメント業務の概要を学習します。このコースは、PMP®資格更新に必要なポイント(PDU: 16ポイント)の取得が可能です。また、このコースは、ITコーディネータ協会のマルチエントリポイント対象コースに認定されており、認定学習時間(16時間)の取得が可能です。

到達目標

- IT化が経営戦略に基づくものであることを説明できる。
- IT経営の戦略策定と評価のポイントについて説明できる。

対象者 CIO、経営企画部門、情報システム部門のマネジャー、ITコーディネータめざす方。

前提知識 特に必要としません。

内容

- 概論: IT化の課題、IT化のプロセス、ケース企業の理解
- 経営戦略: 経営環境分析、CSFの選定、投資対効果、経営戦略の策定
- IT戦略策定: 業務とIT環境のギャップ分析、IT費用対効果、IT戦略の策定
- IT資源調達: 要件定義とRFP
- IT導入: IT導入のポイント
- ITサービス活用: ITサービス活用と継続的な業務プロセス改革への提言

備考

- このコースは、9:30~18:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、富士ゼロックス総合教育研究所との提携コースのため、富士ゼロックス総合教育研究所で開催します。
- コース実施に必要となるご受講者の個人情報や富士ゼロックス総合教育研究所へ提供いたします。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- PMI®、PMP®、PMBOK®ガイド、はプロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。

CTJ026 IT戦略・IS企画

情報システムのユーザテストと移行・切替・本番稼働の準備実務

1日間

情報システム部門が情報システム導入時に安定稼働を保證する条件は、「新規システムの品質確保」と「移行処理・切替作業の確実な実施」および「社内準備のミスのない実行」にあります。このコースでは、情報システム導入時に情報システム部門が社内に対して行う安定稼働を保證するための作業である、ユーザテストと移行・切替・本番稼働の準備の実務について学習します。

到達目標 ・システムの品質保証、問題の管理と解決、移行処理、切替作業の概要を説明できる。
・社内外への必要情報の提示、教育研修とマニュアルが作成できる。
・業務改善、管理基準の変更および運用に関するドキュメントが作成できる。

対象者 企業内の情報システム部門で情報システムのユーザテスト・移行・切替・本番稼働の準備に携わる方。

前提知識 ・情報システムの開発に携わった経験があること。
・これから情報システム開発に携わる方で3年以上の実務経験があるか、または同等の知識があること。

内容 1. 万全な準備の対象
2. ベンダテストの限界とユーザ関与
3. 品質を保證するユーザテスト
4. 「移行処理」とその対応策
5. 切替作業の方法と成功要因
6. 安定稼働のための社内準備
7. まとめ

備考 ・このコースは、9:30～17:20の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。

CTJ022 IT戦略・IS企画

情報システム部門のための開発工程におけるベンダー・マネジメント

2日間

外部委託先がシステム開発プロジェクトに参画した段階からの、開発工程におけるベンダー・マネジメントの基礎知識を学習します。プロジェクトのリスクとトラブルを予防し、問題やその兆候を早期に発見し、委託先と協調しながら、現実的かつ確実に課題の解決を図るための方策を修得します。

到達目標 ・システム開発プロジェクトのベンダー・マネジメントにおける進捗管理・品質管理・リスク管理・変更管理・コスト管理の特性を説明できる。
・現状把握、進捗管理、問題解決に向けた有効な質問と聞き取りができる。
・自身の責任範囲を理解したうえで自社内への問題解決行動の候補を案出できる(折衝/上位者からの交渉/エスカレーション等とすべき行動の判断)。
・委託先との協調、連携作業を意識した自発的コミュニケーションができる。

対象者 企業内の情報システム部門で外部委託先(ベンダー)と連携してシステム開発に携わる方。

前提知識 ・情報システムの開発に携わった経験があること。
・これから情報システム開発に携わる方で3年以上の実務経験があるか、または同等の知識があること。

内容 1. イントロダクション
2. 要求とは何か
3. 契約と委託内容
4. コミュニケーションのマネジメント
5. 品質管理とリスク管理
(1) 委託先の作業計画の確認
6. 進捗管理
(1) 現状把握
(2) 予定と実績の差異確認
(3) 問題への対処
7. 変更管理
8. まとめ

備考 ・このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。

CTJ037 IT戦略・IS企画

(PDU) SEのためのベンダーマネジメント

2日間

このコースでは、調達方針を踏まえ、SEがサブベンダーを取り纏める際のVMについて、開発プロジェクトの現場でサブベンダーの作業実態を把握し、作業進捗管理とリスクマネジメントを遂行する方法を修得します。SEがサブベンダーを取り纏める際の、VMのための「プロジェクト実施方法の合意」「VM計画と問題解決プロセスの共有」「VM実行・監視コントロール」の具体策を学習します。このコースは、PMP®資格更新に必要なポイント(PDU:14ポイント)の取得が可能です。

到達目標 ・ベンダーマネジメント(VM)の基本枠組みを説明できる。
・実際のVM状況の改善策の実務検討ができる。
・ベンダーの問題解決行動を判断、評価する方法を説明できる。

対象者 外部委託先を使って顧客向けシステムを開発するSEの方。

前提知識 ・情報システムの開発に携わった経験があること。
・これから情報システム開発に携わる方で3年以上の実務経験があるか、または同等の知識があること。

内容 1. プロジェクト合意
(1) プロジェクトで開発するプロダクト、サービス、文書
(2) 主要マイルストーン (3) 前提条件の共有
(4) リスク要因の共有 (5) 契約文書の理解
(6) ベンダー責任の明確化
2. VM計画と問題解決プロセス共有
(1) プロジェクト計画の確認 (2) 役割と責任の確認
(3) 進捗管理方法の共有
(4) 問題解決プロセスの共有
(5) リスクマネジメントプロセスの共有
(6) 問題解決プロセスの運用方法の共有
(7) ベンダーとのコミュニケーションプランの共有
3. VM実行・監視コントロール・終結
(1) ベースラインの確認
(2) ベンダーの進捗報告コントロール
(3) 双方でのリスクコントロール
(4) 変更コントロール (5) 終結のコントロール

備考 ・このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。
・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・PMI®、PMP®、PMBOK®ガイドは、プロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。

CTJ054 IT戦略・IS企画

IT活用による業務改善を実現するための問題分析と新業務プロセス設計技法

1日間

組織の生産性向上を実現するためにはITを活用した業務改善が重要になります。しかし、とすればは既存業務の在り方に引っ張られてしまい単なる現状の焼き直しに留まり期待したほどの成果を得られないケースも度々です。本当に取組むべき問題をどのようにして発見しIT化によって解決するかの考え方について、書籍「はじめよう! プロセス設計」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標 ・問題構造分析について説明できる。
・新しい業務プロセスの作り方について説明できる。

対象者 取組みが進まず困っていたり、これから実務で取組むにあたって具体的にどうすればいいのかわかっているITエンジニア職の方。

前提知識 5年以上の企業内での実務経験があるか、または同等の知識があること。また、情報システムの開発または運用に携わった経験があることが望ましい。

内容 1. 業務改善とは何か?
2. 問題構造分析と真の問題
3. ITと業務プロセスの関係
4. 新しいプロセスのつくり方
5. IT化における要件

備考 ・このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
・このコースは、2017年度まで公開していた「ビジネス視点からのIT活用と業務プロセス改善の立案技法- IT化企画の基礎から実践まで -」と同等の内容を含みます。

CTJ055 IT戦略・IS企画

IT主導で攻めのビジネスを実現するための構想立案とIT化企画の作り方

1日間

デジタルイノベーション・AI・IoT...など、ITを全面的に活用することでこれまでになかった新しいビジネスモデルを実現する企業がどんどん生まれています。自社においてこのような取組みをどのように進めればいいのかを、その最重要ポイントに絞って、書籍「はじめよう! プロセス設計」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標 ・ITの真の価値について説明できる。
・新しい業務プロセスの作り方について説明できる。

対象者 取組みが進まず困っていたり、これから実務で取組むにあたって具体的にどうすればいいのかわかっているITエンジニア職の方。

前提知識 5年以上の企業内での実務経験があるか、または同等の知識があること。また、情報システムの開発または運用に携わった経験があることが望ましい。

内容 1. IT化と従来のシステム化の違い
2. 企画とは何か?
3. 顧客と本業とビジネスモデル
4. 顧客の真のニーズとToBe設計
5. カスタマーエクスペリエンスとIT
6. サービスデザインとIT
7. IT化とデジタル化の違い

備考 ・このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
・このコースは、2017年度まで公開していた「ビジネス視点からのIT活用と業務プロセス改善の立案技法- IT化企画の基礎から実践まで -」および「ビジネス視点からのITサービスデザインの進め方」と同等の内容を含みます。

CTJ053 IT戦略・IS企画

現場主導で現状業務の見える化を推進するための業務フロー作成技法

1日間

IT化に限らず現状業務の改善を推進するには現行業務の見える化が不可欠です。現場担当者が前向きになり、かつ割く時間を最小限に抑えながら精度の高い現場業務の見える化を実現するための方法について、書籍「はじめよう! プロセス設計」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標 ・業務の構造について説明できる。
・業務フローの作成方法について説明できる。

対象者 取組みが進まず困っていたり、これから実務で取組むにあたって具体的にどうすればいいのかわかっているITエンジニア職の方。

前提知識 3年以上の企業内での実務経験があるか、または同等の知識があること。また、情報システムの開発または運用に携わった経験があることが望ましい。

内容 1. どうして業務改善が難しいのか
2. 業務の構造
3. 見える化が難しい理由
4. 業務フロー作成技法

備考 ・このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
・このコースは、2017年度まで公開していた「現状業務の洗い出しを確実に実現するための業務フロー作成-書き方・書かせ方-」と同等の内容を含みます。

CTJ052 IT戦略・IS企画

現行システムのリプレイス/改修における現状洗い出しを確実にするための業務フロー作成技法

1日間

昨今のレガシーマイグレーションやモダン化のような既存システムの改修・高度化における難関は現状の利用実態を把握しきれず必要な業務ニーズを取りこぼすことです。これを予防するには現行システムの利用状況をしっかりと把握する必要があります。ともすればドキュメントが揃ってなかったりする現実において、現状の洗い出しを高速かつ簡便に実現する方法について、書籍「はじめよう！プロセス設計」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標 現行システムの洗い出し方法を説明できる。
・業務の構造について説明できる。
・業務フローの作成方法について説明できる。

対象者 取り組みが進まず困っていたり、これから実務で取り組むにあたって具体的にどうすればいいのかわかっているITエンジニアの方。

前提知識 3年以上の企業内での実務経験があるか、または同等の知識があること。また、情報システムの開発または運用に携わった経験があると尚ほ。

内容 1. 現行システム調査の盲点
2. ユーザが期待するもの
3. 業務フロー作成が難しい理由と業務の構造
4. 業務フロー作成技法

備考 ・このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
・このコースは、2017年度まで公開していた「現状業務の洗い出しを確実に実現するための業務フロー作成・書き方・書かせ方」と同等の内容を含みます。

CTJ051 IT戦略・IS企画

ビジネス要求引き出しのための業務課題抽出のテクニック

1日間

工場系・営業系・管理系・SCM系に関する、質問によるMECEな業務課題の引き出し方、主要課題一覧表の作成と確認方法を学習します。

到達目標 企業の全ての業務機能に対して、MECEな質問により業務改革に位置するハイレベルの業務課題を引き出すことができる。

対象者 ・ITエンジニア職の若手・中堅の方で、BABOKガイド程度の知識はあるがビジネスアナリシスの実践に不安を抱えている方。
・ITエンジニア職の若手・中堅の方で、実践において適切な上位者の指導が必要な方。

前提知識 「ソリューション提案のための経営と情報戦略-経営・事業・情報戦略のあるべき関係性-」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容 1. ビジネスアナリシス方法論GUTSY-4の概論
2. 業務課題インタビュースートの作成方法
3. 主要課題一覧表の作成方法

備考 ・このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

CTJ056 IT戦略・IS企画

新時代に向けたビジネスモデル創造の進め方

2日間

AI(人工知能)の急速な進化により、すべてのリアル産業をAIが変革する「リアル産業の大自動化革命の時代」がいよいよやってきます。しかし、AIによる全自動化革命の効果を実現するためには、「顧客に価値を提供し普及させて組織に利益をもたらすための斬新なビジネスモデル」をデザインし実現することが大前提となります。このコースでは、この大前提を実現するための斬新なCX(カスタマーエクスペリエンス)を生み出すビジネスモデルをデザインする方法(プロセス・メソッド・ツール)を、ワークショップを通して学習します。このビジネスモデル・デザインの方法は、「システム思考・分析的思考と直観思考・アナロジカルシンキング」を統合した「アナロジカルメソッド」と呼ぶ独自の手法であり、ビジネスモデルのイノベーション創出という難しい問題に対して、わかりやすくかつ使いやすい方法であると高い評価をいただけてきたものです。

到達目標 下記プロセスから構成する構想企画プロセスの基礎を理解し説明できる。
(1)技術動向や市場/社会/経済動向の変化や、注目すべき人々のニーズを洞察する。
(2)解決すべき問題・実現したい機会を発見する。
(3)問題解決・機会実現収益を獲得することができる提供価値・プロフィットモデルのコンセプトを創出する。
(4)戦略を見極める。カスタマーエクスペリエンス・製品/サービスを設計する。
(5)デジタルトランスフォーメーション推進の実務に関わるすべての方々。
・顧客に魅力的な製品・サービスを提供・提案し、事業収益につなげる活動を進めたいすべての方。

対象者 3年以上の実務経験があること。またITに関する基本的な知識があること。

前提知識 1. ビジネスモデル入門
2. ビジネスデザインプロセス入門
3. ワークショップ

内容 (1)目的・テーマを定める
共感・洞察力を高める
関心事の整理
(2)状況を理解する
コンテキストアナリシス
ビジネスモデルの現状分析
顧客/バリューチェーンのシステム分析
(3)問題を見極める
How might we ?
(4)コンセプトを発想する
コンセプトのアイデアを発想する
コンセプトのイノベーション創出とアナロジカルメソッド
AI適用のイノベーションドライバー
戦略分析
(5)コンセプトを統合する
CX(カスタマーエクスペリエンス)プロセスのデザイン
サービスプロセスのデザイン

備考 ・このコースは、9:00~17:20の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースは、予告なく内容を変更することがあります。

CTJ057 IT戦略・IS企画

これからのIT技術者のための超上流要求開発入門

2日間

いま、必要とされるサービスデザインメソッド

今後、お客様やビジネスパートナーとのやり取りがデジタル化されるDX(デジタルトランスフォーメーション)が大きく進展することが見込まれています。そのために、お客様やパートナーに、サービスとして新しいCX(カスタマーエクスペリエンス)を提供するための、サービスデザインとしての要求開発プラクティスが求められるようになってきました。このコースでは、ワークショップを通して、顧客に対する提供価値をアイデア発想し、斬新なCXを生み出すサービスをデザインする方法(プロセス・メソッド・ツール)を学びます。この提供価値をアイデア発想する方法は、「システム思考・分析的思考と直観思考・アナロジカルシンキング」を統合した「アナロジカルメソッド」と呼ぶ独自の手法であり、サービスのイノベーション創出という難しい問題に対して、わかりやすくかつ使いやすい方法であると高い評価をいただけてきたものです。

到達目標 斬新なCXを生み出すサービスをデザインする方法(プロセス・メソッド・ツール)を説明できる。

対象者 斬新なCXを生み出すサービスをデザイン・提案する必要があるIT技術者や営業・企画担当者の方。

前提知識 3年以上の実務経験があること。またITに関する基本的な知識があること。

内容 1. サービスデザインプロセス入門
2. サービスデザイン・ワークショップ
(1)目的・テーマを定める-与件の整理
与件の整理ヒアリングの実施
共感・洞察力を高める
(2)状況を理解する
対象の「もの・こと」を理解する
カスタマーバリューチェーンのシステム分析
どの価値の流れに注目するか
(3)問題を見極める
How might we ?
(4)サービス・コンセプトの創出
アイデア発想法
ブルーオーシャン戦略の活用
アナロジカルメソッド
(5)サービスデザインを統合する
CXプロセスのデザイン
サービスプロセスのデザイン

備考 ・このコースは、9:00~17:20の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースは、予告なく内容を変更することがあります。

CTJ058 IT戦略・IS企画

ビジネスモデリングからはじめる要求分析モデリング

2日間

今後、お客様やビジネスパートナーとのやり取りがデジタル化されるDX(デジタルトランスフォーメーション)が大きく進展することが見込まれています。このDXにおける要求分析は、お客様やパートナーに、どのようなサービスを提供するかというビジネスモデリングからはじめて要求分析につなげるプラクティスが必要とされます。ところが、この要求分析プラクティスには、業務プロセス分析にもつづいた業務設計から始めるという最初のステップが欠落していることがよくあります。結果、個別の要求にとらわれて全体的な整合性を欠いた要求分析を行うこととなります。このコースでは、ビジネスモデリングからはじめて、業務プロセス分析からの業務設計の成果にもつづき要求分析モデリングの方法をワークショップで実践します。加えて、複数の要求分析モデルを相互すりあわせることで、「もれがなくだぶりがない」要求分析モデルの実現もめざします。

到達目標 ビジネスモデリングからはじめて、業務プロセス分析からの業務設計の成果にもつづいて、経営効率化・迅速化に寄与し信頼性の高い基幹システムの導入開発を実現するための、要求分析モデリングの方法を説明できる。

対象者 経営効率化・迅速化に寄与し信頼性の高い基幹システムの導入開発のために、要求定義・要求分析を行う提案・企画担当者やIT技術者の方。

前提知識 3年以上の実務経験があること。またITに関する基本的な知識があること。

内容 1. ビジネスモデリングからはじめる要求分析モデリング入門
(1)デジタルトランスフォーメーションの要求分析に求められること
(2)デジタルトランスフォーメーションとハイモダリティIT
(3)ビジネスモデルとビジネスデザインプロセス入門
2. ビジネスモデリングからはじめる要求分析モデリング・ワークショップ
(1)お客様やビジネスパートナーへのサービスデザイン
(2)Design Structure Matrixによるワークフローモデリング
(3)イベントモデルやデータモデルによる最適化
(4)詳細な要求分析モデルの作成
3. なぜビジネスモデリングからはじめる要求分析モデリングか
(1)日本のIT経営の重要課題
(2)業務設計からの要求分析モデリングの最適化
(3)ビジネスモデリングと要求分析モデリングの親密な関係

備考 ・このコースは、9:00~17:20の開催とさせていただきます。
・このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・このコースは、予告なく内容を変更することがあります。

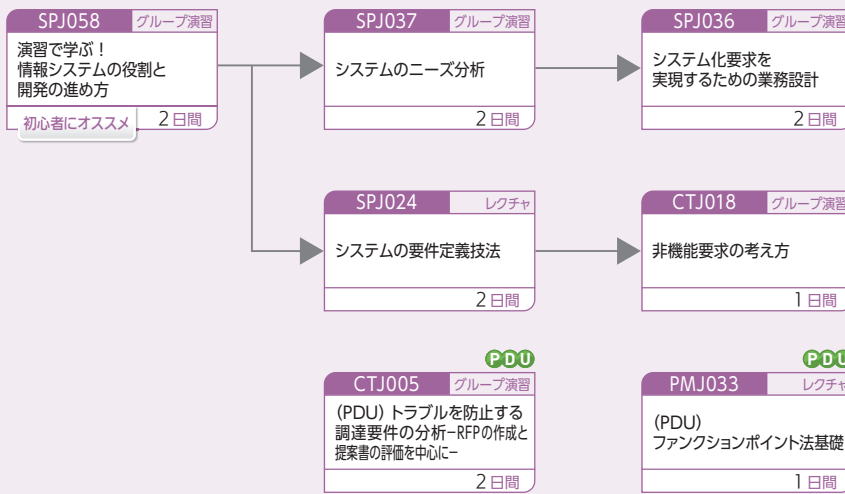
システム設計

情報システムの開発に必要な基礎知識や、開発手順、分析、設計技法が修得できます。

初めて情報システムの開発に携わる方

SPJ058 グループ演習 演習で学ぶ！ 情報システムの役割と 開発の進め方 初心者におすすめ 2日間	音声なし・説明文有 SJE707 eラーニング 【ナビ機能付き】 システム開発の基礎 初心者におすすめ 4時間
--	--

システムの分析・要件定義を担当する方



音声有・説明文有：学習の説明画面とナレーション（説明テキスト）で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

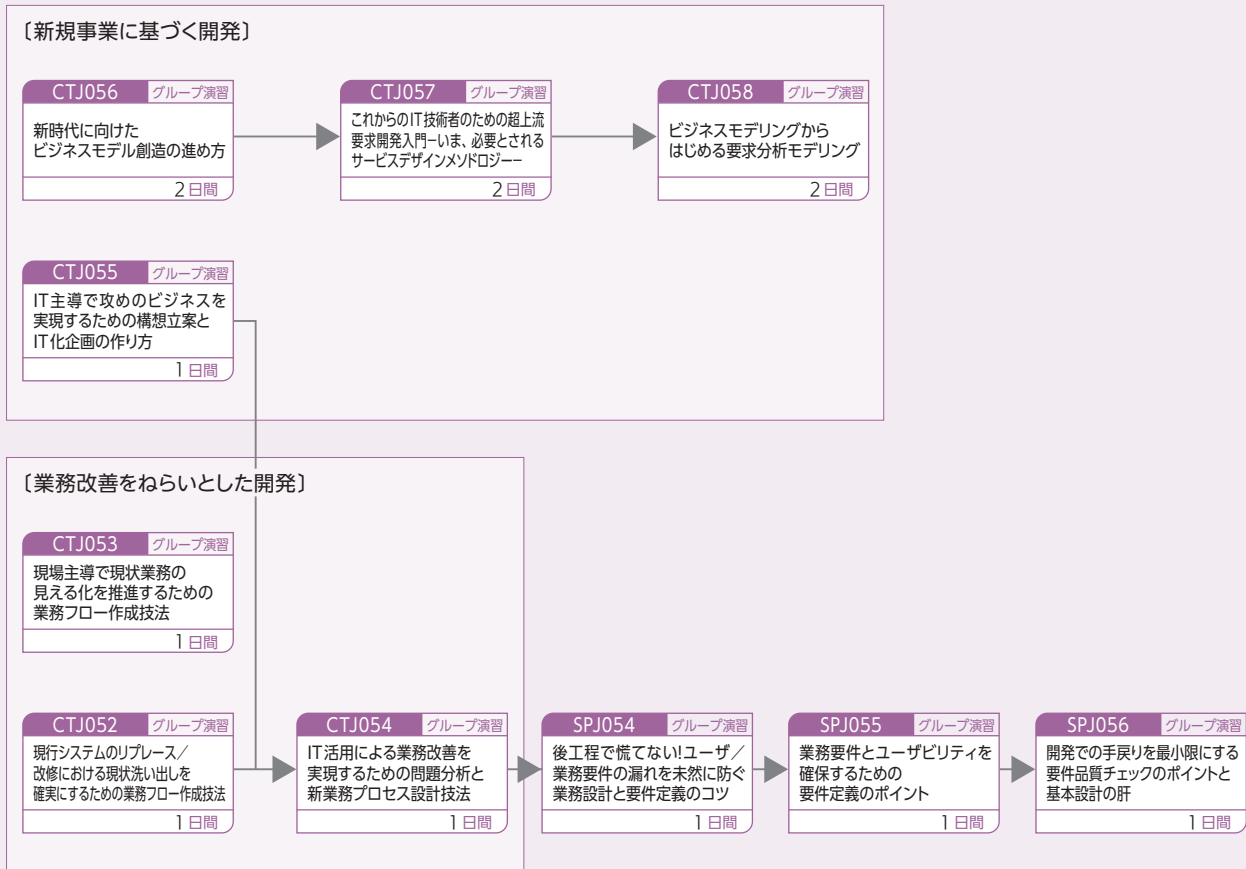
音声有・説明文なし：収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。

音声なし・説明文有：学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

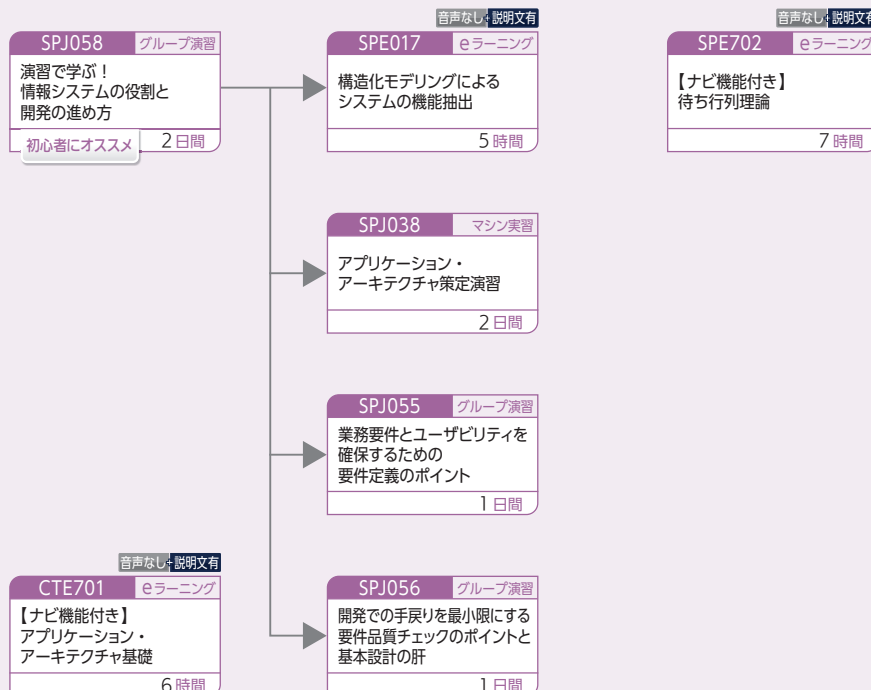
初心者におすすめ：コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。

PDU：PMP® 資格更新に必要なポイント（PDU）を取得できます。

● システム企画／要件定義に携わる方（特に、現場で困っていたり、これから実務で取り組むにあたってお悩みの方向け）



● システム開発の設計を担当する方



音声有、説明文有 : 学習の説明画面とナレーション(説明テキスト)で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。
音声有、説明文なし : 収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。
音声なし、説明文有 : 学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

初心者におススメ : コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。

● システムの最新動向や事例を把握したい方

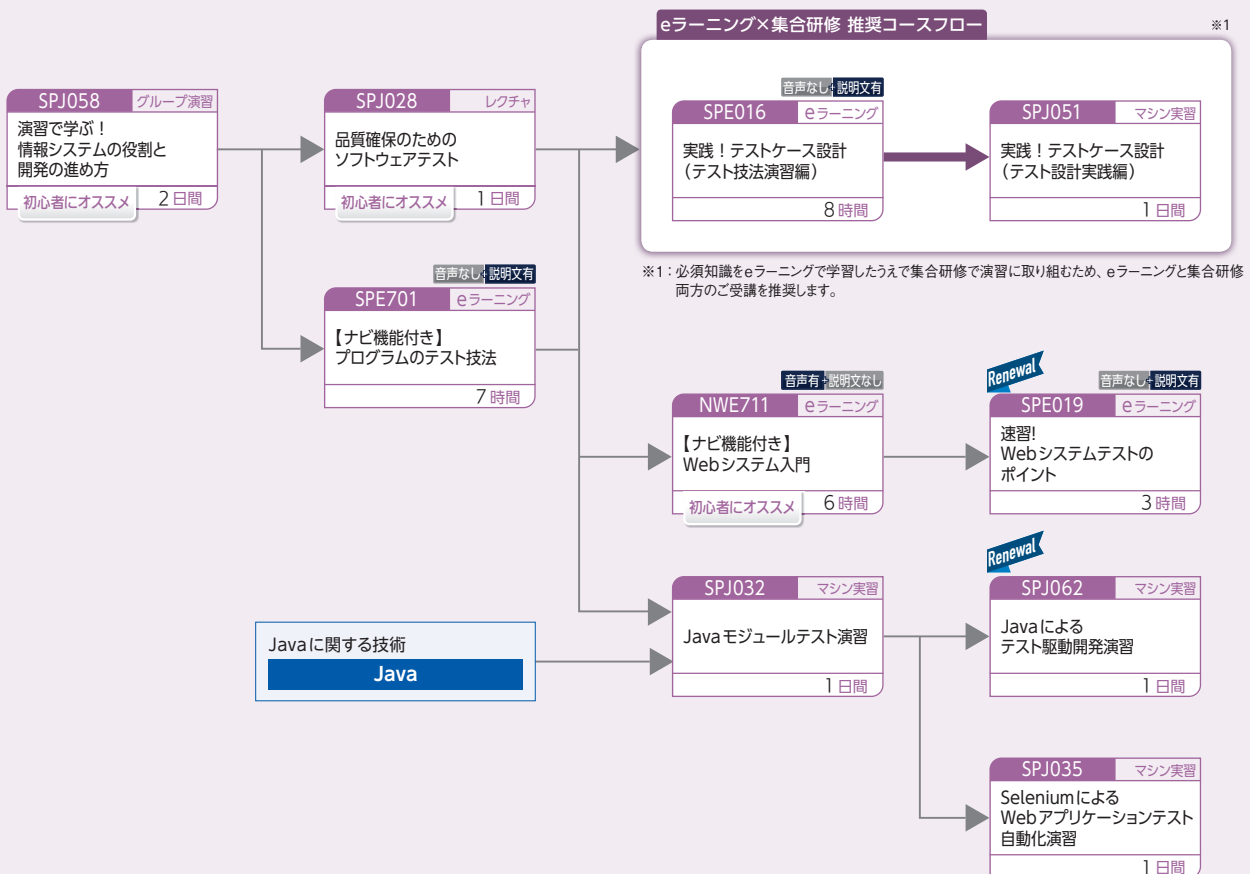
SPJ040 レクチャ クラウドコンピューティングで読み解くITサービスの最新動向 0.5日間	SPJ039 レクチャ 事例から学ぶSaaS活用提案のポイント 0.5日間	New IOJ011 レクチャ スマートスピーカの最新動向と社会インフラ適用の可能性 0.5日間
--	--	---

● DevOpsによるアプリケーション開発の流れを理解したい方

Renewal SPJ060 マシン実習 体験! 最新OSSを活用したDevOps入門-Lumadaにおけるアプリケーション開発の流れ- 1日間	Renewal PDU SPJ059 マシン実習 (PDU)実践! DevOpsによるアジャイル開発-お客様に素早く価値を届けるために- 1日間
---	--

UXJ070 マシン実習 gitによるソフトウェア構成管理 1日間
--

● システムまたはプログラムのテストを担当する方



音声有・説明文有: 学習の説明画面とナレーション(説明テキスト)で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

音声有・説明文なし: 収録した講義画面と講師の音声で学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境が必須となります。

音声なし・説明文有: 学習の説明画面と説明テキストで学習するタイプのeラーニングです。音声の再生環境がなくても学習できます。

初心者におすすめ: コンピュータ未経験の方が前提知識なく学習できる当該分野の最初のコースです。

PDU: PMP® 資格更新に必要なポイント(PDU)を取得できます。

SPJ058 システム設計

グループ演習

2日間

**演習で学ぶ！
情報システムの役割と開発の進め方**

情報システムを開発・発注するうえで必要な基礎知識として、工程別に作業内容や作業目的を学習します。加えて開発プロジェクトの計画・統制・終結の側面から、代表的な仕事（見積り、契約など）についても学習します。

到達目標 ・ 情報システムの役割を説明できる。
・ 開発プロセスおよび作業工程における作業概要を説明できる。
・ 開発方法論、代表的な成果物の表記法を説明できる。

対象者 これからシステムを企画、開発する方。

前提知識 「コンピュータ基礎」コースを修了しているか、またはコンピュータの基礎知識があること。

内容 1. 情報システムとは
(1) 市場、定義、役割
2. 情報システムの開発
(1) 作業と作業順序
(2) 開発プロセス
(3) 開発方式
3. 情報システムの維持・メンテナンス
(1) 情報システムの寿命と保管場所
(2) 必要な作業
4. 情報システムに関わる人
(1) プロジェクト・ステークホルダー
(2) 職種
5. 情報システムのコスト
(1) 見積もり
(2) 契約
6. 情報システムを支える技術
(1) サーバ、冗長化、クラウド、ビッグデータ
7. 演習
(1) 業務分析、データ分析、機能分析

備考 ・ このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。
・ このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。

SJE707 システム設計

eラーニング
ナビ付録

平均4時間

**<eラーニング>【ナビ機能付き】
システム開発の基礎**

システム設計の手法について基礎的な知識を学習します。

到達目標 システム設計に必要な作業について、手順や内容を説明できる。

対象者 ・ システム設計をこれから始める方。
・ システム設計の基礎知識を身につけた方。

前提知識 特に必要としません。

内容 1. システム開発と設計の役割
2. システムの品質と設計手法
3. 基本から詳細設計概略
(1) 段階的詳細化のレベル
(2) 業務機能設計
(3) 実現方式設計（アーキテクチャ）
(4) 外部インタフェース設計（遷移、レイアウト）
(5) バッチ処理設計
(6) データ基本設計（論理DB設計）
(7) プログラム詳細設計
(8) 共通部品設計
(9) データ詳細設計
4. その他の開発手法
5. 修了試験

備考 ・ 説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。（音声の再生環境がなくても学習できます。）
・ このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
・ お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
・ このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

SPJ037 システム設計

グループ演習

2日間

システムのニーズ分析

顧客の業務に一步步み込み、的確なシステム化要件を導き出すまでの一連の基本動作を、ニーズ分析の進め方の解説と演習を通して学習します。

到達目標 ・ ニーズ分析の基礎を説明できる。
・ 顧客の業務に一步步み込み的確なシステム化要件を導き出すまでの一連の基本動作を理解できる。

対象者 システム開発プロジェクトにおいて、システムのニーズ分析を行う方。

前提知識 情報システムに関する基礎知識があること。

内容 1. ニーズ分析の位置づけと意義
(1) 「上流工程」で行うべきこと
(2) ニーズ分析の全体プロセス
(3) ニーズ分析の意義
2. ニーズ分析のプロセス
(1) 準備フェーズ
(2) 分析フェーズ

備考 ・ このコースは、9:30～17:30の開催とさせていただきます。
・ このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。

SPJ036 システム設計

グループ演習

2日間

**システム化要求を実現するための
業務設計**

ニーズ分析に基づく業務アプリケーションの基本設計トレーニングです。システム設計の前提となる要求仕様定義を、業務の仕組みを念頭に確実に実行するための手法を修得します。

到達目標 ・ 業務設計の進め方を説明できる。
・ 要求仕様定義を、業務の仕組みを念頭に確実に実行することができる。

対象者 業務モデリングに関心のある方。

前提知識 特に必要としません。

内容 1. 業務設計の位置づけと意義
(1) 「上流工程」で行うべきこと
(2) 業務設計の全体プロセス
(3) 業務設計の意義
2. 業務設計のプロセス
(1) 業務プロセスデザインフェーズ
(2) アプリケーションデザインフェーズ

備考 ・ このコースは、9:30～17:00の開催とさせていただきます。
・ このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。
・ このコースは、「ビジネスアプリケーション設計」コースの内容改訂および名称を変更したものです。

SPJ024 システム設計

レクチャ

2日間

システムの要件定義技法

システム化による問題解決を図る際に求められる「システムが提供すべき機能」の導出方法について学習します。また、要件定義書を策定するうえで必須となる考え方について演習を通して学習します。非機能要件については、性能、セキュリティなどの観点から整理しておくべき事項を紹介いたします。

到達目標 ・ 要件定義工程の作業概要、考慮すべき点を説明できる。
・ 要件定義工程で作成すべき成果物を説明できる。

対象者 システム開発プロジェクトにおいて要件定義に携わる方。

前提知識 「演習で学ぶ！情報システムの役割と開発の進め方」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容 1. 要件とは
(1) 定義
(2) 各要件の内容
2. 要件定義と前後の作業
(1) 共通フレームでの位置付け
(2) 一般的な位置付け
(3) 現状調査
(4) 問題点分析・課題設定
(5) 基本設計
3. 要件定義
(1) 業務の表記法
(2) 業務の検討
(3) アプリケーションの検討
(4) データの検討
(5) 非機能要件の検討

備考 このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。

CTJ018 システム設計

グループ演習

1日間

非機能要求の考え方

非機能要求グレードの意義や要求項目の定義を正しく理解し、非機能要件を的確に分析・仕様化するための知識修得をめざします。

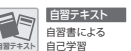
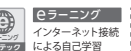
到達目標 ・ 非機能要求の概要を説明できる。
・ 非機能要求を規定する際の勘所を理解できる。
・ 非機能要求グレードの活用方法を説明できる。

対象者 上流工程を担当するシステムエンジニアの方。

前提知識 「演習で学ぶ！情報システムの役割と開発の進め方」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容 1. 非機能要求とは
(1) 定義
(2) 業務、実現手段との関係
(3) ステークホルダーとの関係
(4) 非機能要求間の関係
2. 非機能要求グレードとは
(1) 概要
(2) 非機能要求グレード活用の手順
(3) 非機能要求グレード活用事例
3. ケーススタディ演習（非機能要求の分析）
4. まとめ

備考 ・ このコースは、9:30～16:30の開催とさせていただきます。
・ このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
・ このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしくお願いたします。



SPE702 システム設計

<eラーニング>【ナビ機能付き】
待ち行列理論

平均7時間

ITシステムの設計時に必要となる、待ち行列理論の基本的な考え方を理解します。単一窓口(M/M/1)と複数窓口(M/M/n)を中心に適用方法を修得します。

到達目標 待ち行列モデルの「M/M/1」に関して説明できる。

対象者 待ち行列理論の基本を修得したい方。

前提知識 数学的な基礎知識があること。

内容

1. 待ち行列理論
2. 解析事例学習項目
3. 演習問題
4. 修了試験

備考

- ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。)
- ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
- ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
- ・このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

SPE017 システム設計

<eラーニング>
構造化モデリングによる
システムの機能抽出

平均5時間

データフロー図やデータディクショナリ、ERD、状態遷移図を用いてシステムを構造的に分析する手法を学習します。また、システムを段階的に詳細化しモデル化する価値や思考法を学習します。

到達目標

- ・データフロー図、データディクショナリ、ERD、状態遷移図を読み、理解できる。
- ・データフロー図、データディクショナリ、ERD、状態遷移図を用いて問題記述を分析・詳細化できる。

対象者 情報システム開発プロジェクトに参画し、分析モデリングを行う方。

前提知識 システム開発に関する基礎知識があること。

内容

1. 背景
 - (1) 現実とソフトウェアのギャップ
 - (2) 要求とソフトウェアのギャップ
 - (3) ソフトウェアの開発に必要な作業
2. 思考方法
3. モデリング
 - (1) 構造化モデリングとは
 - (2) 図を書く(DFD、データディクショナリ、ERD、状態遷移図)
 - (3) モデルを書く(DFD、データディクショナリ、ERD)
4. まとめ

備考

- ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。)
- ・このコースは、旧「構造化モデリングによるシステムの機能抽出」コース(集合研修)をeラーニング化したものです。集合研修をご受講済みの方は、申し込まれないようご注意ください。
- ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
- ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
- ・このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

CTE701 システム設計

<eラーニング>【ナビ機能付き】
アプリケーション・アーキテクチャ基礎

平均6時間

アプリケーションのアーキテクチャを設計するための基本的な考え方を学習します。本コンテンツではレイヤーアーキテクチャを例に、それぞれの層の役割、代表的なコンポーネントについて説明します。

到達目標

- ・アーキテクチャの重要性を説明できる。
- ・アーキテクチャを設計するための基本的な手段を説明できる。

対象者 これからアプリケーション開発に携わる方。

前提知識 プログラミングの経験があること。

内容

1. アーキテクチャ設計
2. 論理アーキテクチャ
3. プレゼンテーション層のアーキテクチャ設計
4. アプリケーション層のアーキテクチャ設計
5. データ層のアーキテクチャ設計
6. その他のアーキテクチャ設計
7. 論理アーキテクチャ設計の効果
8. まとめ
9. 修了試験

備考

- ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。)
- ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
- ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
- ・このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

SPJ038 システム設計

アプリケーション・
アーキテクチャ策定演習

マシン実習
2日間

演習を通して、アプリケーション・アーキテクチャの策定要領を学習します。

到達目標

- ・アプリケーション分野の機能要件、およびアプリケーション実行の土台となるシステム分野の非機能要件の整理の仕方を説明できる。
- ・アプリケーション構築のための道具立てについて説明できる。
- ・業務処理に適した業務オブジェクトの構成方法を説明できる。

対象者 アプリケーション・アーキテクチャの策定をお考えの方。

前提知識 情報システム開発の経験があること。

内容

1. 要件定義と方式(アーキテクチャ)設計
2. 演習対象システムの概要
3. 要件定義
4. システム方式
5. アプリケーション方式

備考

- ・このコースは、9:00~17:20の開催とさせていただきます。
- ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

SPJ039 システム設計

事例から学ぶSaaS活用提案のポイント

レクチャ
0.5日間

最新のWebサービスの動向をSaaS概要を中心に解説し、主要なWebサービス提供者の取り組みや、企業における活用事例を解説します。

到達目標

- ・SaaSの概要を理解できる。
- ・今後のWebサービスの方向性がわかる。

対象者 最近のIT動向を把握したいとお考えの営業/SE/プログラマの方。

前提知識 特に必要としません。

内容

1. SaaS(Software as a Service)とは何か
2. SaaS登場までの経緯
3. SaaSを実現する技術
4. SaaSによって大きな変革を求められるITベンダー・主要プレーヤーの取り組み
5. SaaS導入事例解説
6. SaaS導入にあたって注意すべきこと
7. 今後のWebサービスの方向性

備考

- ・このコースは、13:00~15:30の開催とさせていただきます。
- ・「クラウドコンピューティングで読み解くITサービスの最新動向」コースとあわせてのご受講を推奨します。

SPJ040 システム設計

クラウドコンピューティングで読み解く
ITサービスの最新動向

レクチャ
0.5日間

クラウドコンピューティングの技術的背景を総括しながら、新たなITサービスの動向や、今後の可能性について紹介します。

到達目標

- ・クラウドコンピューティングの概念を理解できる。
- ・ビジネスにおける活用例を知ることができる。
- ・提案につながるヒントについて考えることができる。

対象者 最近のIT動向を把握したいとお考えの営業/SE/プログラマの方。

前提知識 特に必要としません。

内容

1. クラウドコンピューティングとは?
2. クラウドコンピューティングを実現する技術
3. クラウドコンピューティングを実現するサービス実例
4. クラウドコンピューティングによる近未来のITサービス

備考

- ・このコースは、9:30~12:00の開催とさせていただきます。
- ・「事例から学ぶSaaS活用提案のポイント」コースとあわせてのご受講を推奨します。

UXJ070 システム設計

マシン実習

gitによるソフトウェア構成管理

1日間

構成管理の必要性、集中型/分散型それぞれの特徴を、マシン演習を通して学習します。個人演習だけでなくペア演習も行い、複数人開発で起こり得る問題点とその解決策も学習します。

到達目標

- 構成管理の必要性と概要を説明できる。
- 構成管理ツールの基本的な操作ができる。
- 複数人で構成管理する時の注意点を説明できる。

対象者 構成管理をこれから利用してアプリケーションを開発する方。

前提知識 システム開発で実装工程の経験があること。

内容

- 構成管理とは
- 構成管理の方法
 - 集中型
 - 分散型
- 個人での構成管理の利用
 - 集中型ツール(Subversion)の基本的な使用方法
 - 分散型ツール(git)と基本的な使用方法
 - 演習
- 複数人での構成管理の利用
 - マージと競合
 - リポジトリホスティングサービス(GitHub)と基本的な使用方法
 - ペア演習

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

SPJ054 システム設計

グループ演習

後工程で慌てない！ ユーザ/業務要件の漏れを未然に防ぐ 業務設計と要件定義のコツ

1日間

システム開発プロジェクトの赤字の発生要因となる、仕様変更や仕様追加を未然に防ぐためには、詰めの甘い業務の設計や機能要件の漏れを早期にチェックし、対策することが求められます。設計工程や開発工程に課題を先送りしないための要件定義への取り組み方について、書籍「はじめよう！要件定義」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標

- 業務設計と要件定義の違いを理解できる。
- 業務設計の具体的な手法を理解できる。
- システム要件の具体的な定義の仕方を理解できる。

対象者 現場で困っていたり、これから実務で取り組むにあたって具体的にどうすればいいのか悩んでいる担当者やSEの方。

前提知識 情報システムの開発または運用での業務経験があること。

内容

- ユーザテストでの手戻り要因
- 要件定義とは何か？
- 新業務フローと業務要件
- 業務要件とシステム機能要件の違い
- 例外処理と要件
- 演習
- まとめ

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
- このコースは、2017年度まで公開していた「後工程での仕様変更/仕様追加を未然に防ぐ要件定義のコツ」と同等の内容を含みます。

SPJ055 システム設計

グループ演習

業務要件とユーザビリティを確保するための要件定義のポイント

1日間

システム開発プロジェクトの終盤においてユーザの検証に伴って生じる「このシステムは使えない」という事態は単なる手戻りというレベルを超えて、プロジェクト自体の意義を問われることすら起こります。この事態を防止するためには、業務上の要件を満たすことと使い勝手を確保することが不可欠です。ではどうすれば良いのかということについて、書籍「はじめよう！要件定義」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標

- 業務要件とオペレーション要件の違いを理解できる。
- 要件定義に不可欠な三点セット(UI・機能・データ)について理解できる。

対象者 現場で困っていたり、これから実務で取り組むにあたって具体的にどうすればいいのか悩んでいる担当者やSEの方。

前提知識 情報システムの開発または運用での業務経験があること。

内容

- 業務要件とユーザビリティの関係
- ユーザビリティとオペレーションフロー
- 材料としての要件
 - UI
 - 機能
 - データ
 - CRUDマトリクスによる検証
- 演習
- まとめ

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
- このコースは、2017年度まで公開していた「開発時の手戻り予防を実現する要件品質チェック技法」と同等の内容を含みます。

SPJ056 システム設計

グループ演習

開発での手戻りを最小限にする 要件品質チェックのポイントと基本設計の肝

1日間

要件定義でいくらか業務要件や使い勝手をしっかり考慮していても実装できないような要件では開発工程が迷走しコストを延々と垂れ流すこととなります。これを防止してきちんと要件を開発につなぐための要件チェックと基本設計をどのようにすべきかについて、書籍「はじめよう！要件定義」の著者が豊富な現場経験に基づく実践的な要点をビジネス系システムを中心にお伝えします。

到達目標

- 設計について理解できる。
- 要件と設計の関係について理解できる。
- アーキテクチャと各層における設計の方法について理解できる。

対象者 現場で困っていたり、これから実務で取り組むにあたって具体的にどうすればいいのか悩んでいる担当者やSEの方。

前提知識 情報システムの開発または運用での業務経験があること。

内容

- 開発で迷走する原因
- 設計とは何か
- 要件と設計の関係
- アーキテクチャと基本設計
 - クライアント層
 - メッセージとサーバ層
 - インフォメーションとDB層
- 演習
- テスト設計(単体・結合・総合)
- まとめ

備考

- このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- このコースは、グループ演習を中心とした構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けてさせていただきます。ご了承のほどよろしくお願いたします。
- このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。
- このコースは、2017年度まで公開していた「開発時の手戻り予防を実現する要件品質チェック技法」と同等の内容を含みます。

SPJ028 システム設計

レクチャ

品質確保のためのソフトウェアテスト

1日間

システム開発を行ううえで品質を確保するために必要な、ソフトウェアテスト分野全般の知識を、担当者と管理者の両視点で学習します。

到達目標

- ソフトウェアテストの必要性を説明できる。
- ソフトウェアテストを実行しソフトウェアの欠陥を抽出できる。
- ソフトウェアテストの流れを説明できる。

対象者 これからソフトウェアテストに関わる方。

前提知識 「コンピュータ基礎」コースを修了しているか、またはコンピュータの基礎知識があること。

内容

- ソフトウェアテスト概要
 - (テストの必要性、テストの目的、テストの実施と管理)
- 開発におけるテストの位置づけ
 - (テストレベル、W字モデル)
- 静的テスト
 - (コードレビュー、静的解析ツール)
- テスト技法の活用
 - (1)制御構造に着目したテストケース設計
 - (2)入出力に着目したテストケース設計
 - (3)複雑な入出力に着目したテストケース設計
 - (4)欠陥の修正
- テストの管理
 - (1)バグゼロの落とし穴
 - (2)テスト計画
 - (3)ソフトウェアマトリクス
 - (4)改善のための布石

備考 このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。

SPE016 システム設計

eラーニング

<eラーニング> 実践！テストケース設計 (テスト技法演習編)

平均8時間

現在知られているテスト技法の全体像を知り、代表的な手法を扱う演習を通して、テスト実装のスキルを修得します。

到達目標 代表的なテスト技法を使用してテストケースを作成できる。

対象者 これからテスト技法を修得したい方。

前提知識 「品質確保のためのソフトウェアテスト」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容

- ソフトウェアテストにおける基本概念
- テスト技法
 - (1) テスト技法の概要
 - (2) 入出力に着目したテスト
 - (3) 入力の組合せに着目したテスト
 - (4) 状態に着目したテスト
 - (5) ユースケースに着目したテスト

備考

- 説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。)
- このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
- お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
- このコースは、「eラーニング×集合研修」の推奨コースです。集合研修「実践！テストケース設計(テスト設計実践編)」コース(SPJ051)の前提となる共通の基礎知識部分をeラーニング化したものです。集合研修とあわせてのご受講を推奨します。
- 詳細につきましては、ホームページの「eラーニング×集合研修」推奨コース学習要領をご覧ください。<https://www.hitachi-ia.co.jp/koushukai/BlendingLearning/index.html>
- このコースは、旧題「実践！テストケース設計」コース(集合研修)と学習内容が重複します。集合研修をご受講済みの方は、申し込まないようご注意ください。
- このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

SPJ051 システム設計

実践! テストケース設計 (テスト設計実践編)

1日間

このコースではモデルケースを使いテスト分析・設計に基づいてテストケースを作成する演習に取り組みます。その後ペアまたは小グループでレビューをし、より良いテストケースをめざします。

到達目標

- ・テスト分析・設計の考え方を理解できる。
- ・テスト分析・設計に基づいてテストケースを作成できる。
- ・テストケースの良し悪しについてレビューできる。

対象者

- ・これからソフトウェアテストを担当する人で、テストの目的を踏まえたテストケースを作りたい方。
- ・テストケース密度を参考にテストケースを作るがバグが出ないなど、テストケースに関する問題を抱えている方。

前提知識

「実践! テストケース設計 (テスト技法演習編)」eラーニングコースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容

1. ソフトウェアテストを取り巻く環境
2. テスト分析・設計
 - (1) テスト分析・設計の目的
 - (2) テスト分析・設計の進め方
 - (3) 分析・設計結果の活用
3. 総合演習
 - (1) テスト分析・設計とテストケース作成
 - (2) テストケースレビューと振り返り

備考

- ・このコースは、9:30~16:30の開催とさせていただきます。
- ・このコースは、「eラーニング×集合研修」の推奨コースです。
- ・「実践! テストケース設計 (テスト技法演習編)」eラーニングコース (SPE016)とあわせてのご受講を推奨します。eラーニングでは、このコースの前提となる基礎知識を修得します。
- ・詳細につきましては、ホームページの「eラーニング×集合研修」推奨コース学習要領をご覧ください。<https://www.hitachi-ia.com.jp/koushukai/BlendingLearning/index.html>
- ・このコースは、グループ演習を含む構成のため、研修効果の観点から最少開催人数を設けていただいております。ご了承のほどよろしく申し上げます。

SPE019 システム設計

<eラーニング> 速習! Webシステムテストのポイント

平均3時間

Webシステムにおけるテスト設計において必要となる、テスト体系、着眼点、代表的な技法について学習します。

到達目標

- ・Webシステムテストの留意点を説明できる。
- ・Webシステムテストの種類を説明できる。

対象者

Webシステムをテストする方。Webシステムを設計する方。

前提知識

「プログラムのテスト技法」eラーニングコース、または「品質確保のためのソフトウェアテスト」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容

1. Webシステムを取り巻く状況
2. Webシステムのテストにおける姿勢と施策
 - (1) 品質の定義を知る
 - (2) ビジネスリスクを捉える
 - (3) テスタビリティに留意する
3. Webシステムテストの種類
4. Webシステムテストのポイント
 - (1) 非機能テスト
 - (2) グレーボックステスト
 - (3) 経験値ベーステスト
 - (4) 回帰テスト
5. Webシステムテストを自動化するツール

備考

- ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。)
- ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
- ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
- ・このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

SPJ032 システム設計

Javaモジュールテスト演習

1日間

単体テスト (モジュールテスト) を自動化して、効率的にテストを実施する方法について学習します。またマシン実習では、JUnit等のテスト作成支援ツールを利用してテストコードを作成しテストを実施します。

到達目標

- ・自動テスト作成の考え方や、ツールを利用した実践的なテスト手順について説明できる。
- ・ツールを利用して自動テストを実施できる。

対象者

Java言語でプログラムを作成する方、モジュールテストの自動化に興味のある方。

前提知識

「品質確保のためのソフトウェアテスト」および「Javaプログラミング 2 (基本クラス編)」コース/eラーニングコースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容

1. テスト駆動開発について
 - (1) テスト自動化の必要性
 - (2) 本コースで利用するツールの関係
2. JUnit を使用したテスト自動化
 - (1) JUnit とは
 - (2) テストコードの基本
 - (3) テストコード作成ガイド
3. 動的解析支援ツール
 - (1) 使用する動的解析ツール概要
 - (2) カバレッジ収集
 - (3) レポート作成
4. 演習

備考

このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。

SPJ062 システム設計

Javaによるテスト駆動開発演習

1日間

テストを活用した開発手法であるテスト駆動開発について学習します。Javaによるアプリケーション開発を通して、テスト駆動開発の進め方やJUnitなどを利用した自動化の仕組みを学習します。

到達目標

- ・テスト駆動開発の進め方を説明できる。
- ・テスト駆動開発を進めるうえでの重要点を説明できる。
- ・実装前にテストコードを作成し、テストファーストの開発を実践できる。

対象者

テスト駆動開発を利用して開発を進める方。

前提知識

1. 「Javaプログラミング2-基本クラス編」コース/eラーニングコースを修了しているか、または同等の知識があること。
2. 「Javaモジュールテスト演習」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容

1. はじめに
2. テスト駆動開発
3. 効率的にテスト駆動開発を進めるために
4. テスト駆動開発演習

備考

- ・このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。
- ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

SPJ035 システム設計

Seleniumによる Webアプリケーションテスト自動化演習

1日間

SeleniumによりWebアプリケーションテストを自動化し、JUnitとSelenium WebDriverを用いてテストコードを作成して、効率的にテストを実施する方法について学習します。

到達目標

- ・Selenium WebDriverのJava用APIを利用してブラウザの操作を行うプログラムを作成できる。
- ・Selenium WebDriverとJUnitフレームワークを利用して、Webアプリケーションの自動テストを実施できる。

対象者

Webアプリケーションのテストを行う方、Webアプリケーション自動操作のツールを作成する方。

前提知識

「Javaプログラミング 2 (基本クラス編)」コース/eラーニングコースおよび「Javaモジュールテスト演習」コースを修了しているか、または同等の知識があること。

内容

1. Seleniumとは
2. Selenium WebDriver使用方法
3. JUnitフレームワークを利用したWebアプリケーションのテスト作成
4. Webアプリケーションのテスト自動化演習

備考

- ・このコースは、9:30~17:00の開催とさせていただきます。
- ・このコースの内容は、予告なく変更になる場合があります。

SPE701 システム設計

<eラーニング> [ナビ機能付き] プログラムのテスト技法

平均7時間

プログラムのテスト作業における手順、技法についての基本的な考え方を学習します。

到達目標

- ・プログラムのテストを実施する手順を説明できる。
- ・テスト実施時に必要なテスト技法の概要と種類を説明できる。

対象者

これからプログラムのテストに携わる方。

前提知識

コンピュータおよびプログラミングの基礎知識があること。

内容

1. プログラムテストの概要
 - (1) テスト作業の位置づけ
 - (2) テストの必要性
 - (3) テスト作業の内容
2. プログラムのテスト技法
 - (1) テストデータの設計方法 (ホワイトボックステスト、ブラックボックステスト)
 - (2) テスト・デバッグの方法
3. テストの管理
4. 修了試験

備考

- ・説明の画面と説明テキストで学習するタイプのコースです。(音声の再生環境がなくても学習できます。)
- ・このコースは、インターネットによる研修のため、パソコンとWeb環境が必要です。
- ・お申し込みの前に必ず学習利用環境、お申込方法をご確認ください。なお、ご利用にあたっては、ご受講者とお申込責任者の方のE-Mailアドレスが必須となります。
- ・このコースにはヘルプデスクサービスはありません。

HITACHI

Inspire the Next

各種研修サービスに関するお問い合わせ

地 区	T E L	F A X
東 京	03-5471-8962	03-5471-2564
大 阪	06-4797-7360	06-4797-7361
名古屋	052-269-8940	052-261-8276
広 島	082-546-6172	082-546-6173
福 岡	092-844-7522	092-844-7580

日立研修会お問い合わせ窓口 > <https://www.hitachi-ia.co.jp/inquiry/index.html>